

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3070103183
法人名	株式会社 朋久
事業所名	さくら園 紀伊風土記の丘
所在地	〒640-8301 和歌山県和歌山市岩橋1399-1 (電話) 073-474-7739

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年6月10日

【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 1 人, 非常勤10 人, 常勤換算	4.95 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り	
	2 階建ての	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

### (4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	77 歳	最高	88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人進正会寺下病院・須佐病院・医療法人 松本診療所・中西歯科病院
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季折々を肌で感じる事ができる自然に囲まれ、国の特別史跡である紀伊風土記の丘近くに立地し、1階が高齢者住宅となっているグループホームで、「自分の親も安心して暮らせるホームをつくりたい」という思いで開設されました。何でも相談出来る管理者の下、職員は一人ひとりを尊重し、協力し合いながら日々のケアに取り組み、入居者の笑顔につながっています。また、ホテルで実施されるさくら園まつりや、忘年会などの行事の際に家族も多数参加され、良い関係が築かれています。入居者は出来る事を職員と一緒にしながら、毎日の散歩や自分の役割を持ち、様々な楽しみ事を通して和気合い合いとゆったり過ごされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題については、誰でも目につく場所に理念を掲示したり、記録物や書類を改定する等改善に向けて取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、全職員で話し合い、まとめて作り上げられています。職員は評価の意義、項目について理解しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	法人弁護士や民生委員、地域ボランティアの方が参加する運営推進会議がこれまでに1度開催されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際や年に3回の行事の後に家族会を実施し、ざくばらんな場の中で活発な意見交換を行っています。書類にも苦情に関する措置の概要を明確にし、行政にも相談をしています。また、今後家族会で無記名の満足度アンケート調査を実施し、運営に反映させていく予定です。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の回覧板を入居者と一緒に行ったり、風土記の丘で実施される演奏会に参加したり、マラソンの応援をしたり、市内の行事にも参加しています。ボランティアの訪問も多く、ホームで開催するミニコンサート等の行事の際は近隣の方を招いています。また、幼稚園児が遊びに来たり、高校生の訪問もあり、積極的に交流を図っています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの立場に立って支援が出来るように、「愛情を持って根気よく。いつもそばにいるよ」のグループホーム独自の理念を開設より掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者より毎朝の申し送り時に理念にそった話をしており、職員はケアの中で理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の回覧板を入居者と一緒を持って行ったり、風土記の丘で実施される演奏会に参加したり、マラソンの応援をしたり、市内の行事にも参加している。また、ホームで開催するミニコンサート等の行事に近隣の方を招いており、幼稚園児が遊びに来たり、高校生も訪問したり、積極的に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の課題については、誰でも目につく場所に理念を掲示したり、記録物や書類を改定する等改善に向けて取り組んでいる。今回の自己評価については、全職員で話し合い、まとめて作り上げており、職員は評価の意義、項目について理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人弁護士や民生委員、地域ボランティアの方が参加する運営推進会議がこれまでに1度開かれているが、継続出来ていない。	○	地域の代表や行政、家族に運営推進会議へ積極的な参加を呼びかけ、定期的に会議をの開催し、ホームの活動をはじめ、情報交換や話し合いを通じて意見をもらい、その取り組みを通して地域の理解と支援を得る貴重な機会としたり、地域に開かれたサービスとして質の確保を図る事が望まれる。

さくら園 紀伊風土記の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の方と管理者はつながりがあり、情報収集したり、苦情について相談をしたり連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームに来られた際や電話にて暮らしぶりや健康状態について報告している。また、毎月入居者の表情が見える写真を載せたさくら園通信を、金銭管理報告とともに送付もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際や年に3回の行事の後に家族会を実施し、ざっくばらんな場の中で活発な意見交換を行っている。書類にも苦情に関する措置の概要を明確にし、行政にも相談をしている。また、今後家族会で無記名の満足度アンケート調査を実施し、運営に反映させていく予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人による異動はなく、毎月給料を手渡しし、理事長による面談を実施している。夜勤帯については夜勤と宿直の2人体制をとっている。また、新しい職員を採用する場合は、日勤と夜勤で職員について入ってもらい、本人とホーム側双方で相性を見て決定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での管理者からのOJTによる勉強会や認知症実践研修を随時受講してもらっている。外部研修については受講料、テキスト代は法人支給であるが個人的な参加となっている。研修受講後は報告書を作成し、回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で知り合った他のグループホームと情報交換したり、相談したりしている。今後、ネットワークづくりをしたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始までにホームを見学もらったり、一泊のトレーニングが必要と考えている。いきなりのサービス開始の場合は馴染めるように家族に話を聞いたり、職員がなるべくその方についたり工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で入居者に教えてもらったり、笑ったりする場面があり、何でも職員と一緒にいながら、支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人ひとりの思いや希望を聞き、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりにそった介護計画が作成されており、本人、家族の思いを反映し、職員の意見については、日々の申し送りや支援経過等で把握している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヶ月に1回見直しがされており、出来る事出来ないこと一覧も更新している。医師からの意見や状態の変化があった場合はすぐに見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、通院介助や個別での買物、美容院等の支援をしている。また、外部からの介護相談を受けたりもしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を聞いてかかりつけ医を決めている。それぞれのかかりつけ医と出来るだけ連携をとっている。また、ホームには週に2回医師の往診、看護師の訪問がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した際、本人、家族の意向を踏まえて、医師と相談し、看護師、職員で支援をしている。	○	方針を书面化し、契約時の段階から本人、家族の意向を確認する事や本人の状況に応じて、ホームが対応しうる最大のケアについての説明を行い、本人、家族の意向を再確認する事が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った言葉がけや、誇りを損なわない言葉遣いに注意を払い、見かけた際は管理者から注意し徹底している。個人情報については、事務室で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなホームの日課はあるが、その日の本人のペースや希望に合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に合わせた献立を立てたり、包丁で具を切ったり、皮をむいたりなどの調理、配膳、食事、後片付けを一緒に行い、食事を一日の大切な活動のひとつにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせた入浴が支援されており、1階にある人工炭酸温泉へ入りに行ったり、よもぎ風呂にしたり工夫している。毎日の入浴や就寝前の入浴も支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	熱帯魚のえさやり、新聞取り、洗濯ものとり込み、掃除など役割分担が出来ている。散歩や園芸、食事づくり、カラオケ、トランプ遊びやボランティアによるエステや大正琴、筆絵や筆絵など様々なレクリエーションを通して活き活きと生活されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースにも恵まれ、天気の良い日は散歩に行ったり、ホームの前のウッドデッキやベンチで過ごしている。また、近くの喫茶店にもよく行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。外に出掛けられる場合は職員と一緒に付いて行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の協力について近隣へ声掛けを行い、地域の消防団に挨拶にも行っている。	○	消防署の協力による避難訓練、消化器具の使い方などの訓練やホーム独自で避難経路の確認や通報訓練などにも取り組まれる事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録し、水分はなるべくとってもらえる様に配慮している。栄養バランスを考えたメニューを考えており、定期的管理栄養士にメニューチェックを受けたり、参考メニューをもらったりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりが感じられる共用空間となっており、居間は広く、和室にはコタツを置いたり、雛人形を飾りついている。廊下の空いているスペースに椅子を置いて、一人になれる場所も確保されている。また、トイレ、洗面所は2室に1箇所設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでに使われていたり、大切にされているタンスや鏡台、仏壇、家族の写真、食器棚などが持ち込まれており、一人ひとりに合った居室づくりがされている。		